

◆富田特別代表のお話

ガバナーのお話では、9月始には承認になるだろうとのことでした。ところが滝本氏から寿原氏への引継ぎ期に重なつたのと、チャーター・メンバーのリストや地区分割の点で疑問があつたり それに対する回答を行つたりで、事務的に後れました。寿原ガバナーよりも、後れて申し訳ない、皆様に宜敷くお伝え下さる様にとのことでした。何れにせよ少し後れそうですが、早く承認を受けられる様努力中です。

◆スピーチ 〃各国の医療保障制度について〃 水上会員

人間が幸福であることの条件の一つに健康がある。裏返せば病気であり、これを治療するのが医師の大きな仕事の一つである。昔から「医は仁術」と言われて来たが、進歩した現代では医療の姿が大きく変つて来た。即ち医療保障制度が普及して来たことである。然しこの一見理想的にみえる医療保障制度（考え方によつては国民所得の再配分である）が、実際問題としてうまくゆかずにもめている人間の、而も病気と言う特殊状態を取扱う制度が難しいのは当然である。今回は主要各国の医療保障制度を概略のみお話しし、皆様方にとつても無関心事ではあり得ない、日本の将来の医療保障制度はどうあるべきかを考えていただきたく参考となれば幸である。

①イギリス 「ゆりかごから墓場まで」の国である。社会保障の歴史は古く、1912年に既に健康保険制度が実施されている。1949年には医療国営に踏み切つた。ナショナル・ヘルス・サービスと呼ばれ、医師は全部国から俸給が支払われる。開業医のパネル方式（人頭支払方式一登録制）は一つの特徴である。

②アメリカ 医療保障制度はごく一部にだけ実施されており、それに対し国は干渉しない。殆んどが自由診療であつて、医療保障制度を必要としないのであろうか。

③ソビエト 政府が全医療費を負担する、徹底した保障制度をとつている。40万以上の医師は全部勤務医で、看護婦を優先的に医大に進学させる為85%は女医である。又学生時代から給料を貰、卒業後2年は田舎で勤める義務があるので無医村はない。然し医師の待遇は良くないので、優秀な男性は敬遠する由。

世界一の福祉国家と言われるスウェーデンや、日本の現在の医療保障制度については省略するが、要するに、各国各様の制度でやつてみてはいるが、何れの国も中々うまくゆかないのが実情の様である。終りに「医療保障は如何にあるべきか」の答として参考資料よりの一節を述べておく。「医療保障は社会保障と同様に、不健康に陥つたものを治療、救済するのが目的のすべてではない。むしろ疾病の予防、疾病の減少、更に国民の健康の増進、そして公平と機会均等の原則により医学上の最上の治療を、すべての国民に保証することである。」

◆出席報告 会員数 30名 出席 22名 他ク出席 4名 計 26名 (出席率86.7%)
次回 (9月16日) の卓話 山内一雄君



The Weekly Report of Hakodate-North R.C.

このマークを真に光らせよう



春山神景 瀬深会員画

通算 第14号

1964~65 - 9 - 9

函館北ロータリークラブ

第13回例会

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

◆斉唱 〃それこそロータリー〃

◆司会 新 会長

◆ピジター 小畑清一君(森) 函館東 6名 函館 15名

◆会長挨拶

- ①社会福祉法人函館共愛会で「ゆりかご園」を開設されたので当をクラブ代表して遠藤副会長が出席し御祝を贈呈しました。これに対し町重な挨拶状がまいりました。
- ②9月11日~13日帯広市において開催される350地区年次大会第1日目に「交通安全と一般問題について」と題し自由討議が開催されます。私も出席をしますから意見があれば明日までご提出下さい。

◆幹事報告

- ①帯広R.C. 9月9日(水)、帯広北R.C. 9月11日(金)の例会は年次大会リハーサルのため9月7日に繰上げられました。
- ②例会後理事会を開催します。

◆スピーチ

成沢善次郎君

今後の石炭販買会社の進路と一般家庭の燃料がどう変化しているかについて説明をしたい。本論に先立つて炭鉱の状況、1. 生産について、2. 労務者数について、3. 閉山について、4. 努力については図表(図表について説明あり)のようにエネルギー革命は石炭の需要構造を大きく変化させている。石炭の横ばいに対し重油は2割以上、天然ガスは4割以上の伸びを示している。政府のてこいれ対策をもつてしても時代の流れは如何ともなし難い状況であつた。都市ガス原料構成は石炭5重油5であつたのが石炭4、原油3.5、天然ガス2.5となつた。石炭よりは原油、原油よりは天然ガスと価格が安くなつていたので自然に安い原料が使われる理である。石炭メーカーは現況に対処するため、1.原料炭のウェートを高める。2.重油L.P.G.を取扱う。3.土地、観光事業、セメント製造等多角経営に乗りだした。北炭の松島炭鉱は8割まで原料炭に切換え、又坑内ガスを利用して発電をし合理化により単価の引下げに成功し利益をあげている、各炭鉱とも合理化と新しい開発が計られ新しい日本の産業に生れ変わりつゝある。家庭燃料には従来のものにL.P.G.が加えられた。経済的でないが無ガス都市や自動車用として近代燃料のトップとして更に今後も伸びが期待される。石油コンロ用として無ガス都市に使われた石油、灯油はL.P.G.の進出によつて押えられている。新しい冬の暖房としてポータブル式石油ストーブが登場し東京大阪地区の住宅、秋の終りの北海道の補助暖房として広く使われているので相当量の灯油が消費されている。又北海道向として大型ポット式ストーブが出現し増産されているが価格や燃料費が石炭等よりは高いようである。石油ストーブは扇風機の製造数量と一致する程の生産量であつてこれらに消費される灯油は石炭豆炭の消費量の伸びより大きくL.P.G.に次いでいる。家庭での経済的な燃料器具は米国製のストーカーメツクコールヒーターであると思う。石炭ストーブと異り自動式であり、大型油の温風ストーブと違い器具費、燃料費とも約半分ですむ特質がある。今後の石炭営業者は燃料革命に伴いあらゆる燃料と器具とを研究し、エネルギー供給会社として需要家の満足が得れるよう心掛けなければならない。

◆出席報告 会員数 30名 出席 21名 他ク出席 2名 計 23名(76.67%)

次回以降の卓話として、次の方々が予定されております。

山内一雄君 青柳喜一君 奥村順司君 戸栗力君

次回例会日 9月30日



The Weekly Report of Hakodate North R. C.

このマークを真に光らせよう



三森山 深瀬会員画

通算 第15号
1964~65 - 9 - 16
函館北ロータリークラブ

第14回例会

例会場 明治生命館
例会日 毎週水曜日
12.30~13.30

- ◆司会 新 会長 ◆斉 唱 〃手に手つないで、
- ◆ビジター 原忠雄君他13名(函館R.C.) 富田恭君他8名(函館東R.C.)

◆会長挨拶並に報告

①国際奉仕委員長に代り報告します。先般行われたドイツ副領事ルドウイツヒ・ハーバー氏遭難90年追悼式に対し、ドイツ大使ヘルベルト・デイツトマン氏より、当クラブ宛に感謝の書面が参りました。彼の甥であるフリッツ・ハーバー博士は、空中よりの窒素固定でノーベル賞を受けた方であり、本日はそれにちなんで、後程飯田神生会員より「ハーバー法」の解説をお願いすることにしたい。

②350地区大会に出席して来ましたが、参加者632名、家族108名、地区外70名を加え合計810名で、前景気に増した盛況でした。ホスト・クラブが1年前から準備しただけあつて、会の運び、会の内容、会場(市民会館)の施設等、実に立派でした。

R. I. 会長代理としてイギリスのハーリー・トンブソン氏夫妻が来られ、大会に対しメツセージが読まれ、翻訳した冊子もいただいて来ました。又奨学金制度による台湾の研究生、アメリカの女子高校生、旭川のインターアクト・クラブの代表者の出席があり、国際色を添えていました。第1日目の講演は小樽商大の加茂学長で、レオナルド・ダ・ビンチのお話があり、第2日目は記念講演で、358地区(東京)のバスター・ガバナー中村米